

令和3年3月発行

東灘区サポセン通信 第2号



発行 東灘区医療介護サポートセンター

住所：〒658-0054 神戸市東灘区御影中町 4 丁目 1-8 東灘区医師会館内 3 階
TEL: 078-822-0171 FAX: 078-822-0172 担当： 長友、飯野

医療・介護関係者の皆様は、緊急事態宣言が解除になりましたが、日々ご苦労の多いことと思います。東灘区の皆様に少しでも役に立つ情報や医療職・介護職の方々の連携に役に立つ情報を発信したいと思いますので、よろしくお願いいたします。



(住吉川の梅)

東灘区医療介護サポートセンター メンバー紹介

神戸市東灘区医師会会長、副会長、担当理事2名の先生方4名とコーディネーター2名
どうぞよろしくお願いいたします。

医師会理事
青山 正人



医師会副会長
是則 清一

医師会理事
児島 隆介

各団体から

今回より、多職種（団体）の方々からの活動報告（自己PRや多職種連携について思う事など）を掲載していきます。

まず、第1回は神戸市東灘区医師会です！

コーディネーター
飯野 留美子

医師会会長
堀本 仁士

コーディネーター
長友 まゆみ

<地域包括ケアにおける連携について>

神戸市東灘区医師会副会長 是則清一

地域における連携として東灘区医師会においては、①区内6病院 ②歯科医師会、薬剤師会との三師会 ③区役所、消防、警察など行政 ④老人施設 ⑤ケアマネジャー、訪問看護ステーションなどの在宅職など様々な所とのつながりを構築しています。地域包括ケアの「最後まで住み慣れた地域で暮らす」というためにこれらのつながりを深め在宅医療を行っていくことが大切であると考えます。

その中で具体的な活動について2点紹介します。

1つ目は、東灘区在宅NST推進研究会の活動です。「食」というテーマで医師、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、管理栄養士、リハ職、看護師、ケアマネジャーが集まり病院、施設、在宅へと続く「食」についての取り組みで「うめえプロジェクト」と題して活動中です。東灘区医師会のホームページからリンクしていますのでご高覧ください。

2つ目はコロナ禍における連携です。病院長と医師会長のトップ会談から実現した年末年始発熱外来（六甲アイランド甲南病院に東灘区医師会医師が出務して発熱外来を実施した）です。日頃のつながりがさらに深まる一例ですが、これからもコロナ禍においてますます多職種、多施設の連携が必要になると考えられ、その中で医師会としてできる最大の協力をしていきたいと考えています。

★次回は、東灘区歯科医師会と兵庫県歯科衛生士会にバトンタッチです。



東灘区在宅 NST 推進研究会(うめえプロジェクト) ホームページの開設と研修動画案内



神戸市東灘区医師会は、東灘区における食支援の問題点（病院・施設間の嚥下調整食などの名称が異なる、栄養サマリーがなく「食」に関する連携がしにくい、食支援に関する相談先やシステムがないなど）を解決する一つの手段として、昨年3月に「東灘区食支援連携ツール 活用の手引き」を多職種と連携して作成いたしました。多くの方々にこの3つのツールをご活用いただくために、ホームページの開設と研修動画の作成をしました。食支援ツールについてわかりやすく説明しておりますので、是非ご視聴ください！



神戸市東灘区医師会のホームページ <http://www.kobe-med.or.jp/hnada/> 上にある

東灘区在宅 NST 推進研究会
うめえプロジェクト

を押してアクセス

東灘区食支援連携ツール WEB 研修会の YouTube チャンネルへアクセスしてください。

アクセス方法： 神戸市東灘区医師会ホームページまたは右記QRコード

https://www.youtube.com/channel/UCnlcw_35x0GhpJHtNC4hAlw



研修会報告



令和3年1月28日（木）に2020年度第1回東灘区在宅医療塾を開催しました。

『在宅看取りを多職種で支えるために』

～本人・家族の希望をかなえられる看取りをするための医療介護連携を考える～

【参加者】50名（ZOOMによる研修）

★ 講演とパネルディスカッション

<講師>ろっこう医療生活協同組合 うはらクリニック 院長 村上 正治先生

<座長> 神戸市東灘区医師会 理事 青山 正人先生

<パネリスト>

- | | |
|---------------------------|---------|
| ・甲南訪問看護ステーション（訪問看護師） | 藤井 広美氏 |
| ・ニコニコ元気堂薬局 のより店（訪問薬剤師） | 清水 美智子氏 |
| ・サポートクラブゆう兵庫（訪問入浴クリエーター） | 寺下 久規氏 |
| ・東灘区医療介護サポートセンター（ケアマネジャー） | 飯野 留美子 |

<内容>

慢性心不全のケース、アルツハイマー型認知症のケース、脳梗塞後遺症のケースを3例説明、医療の関わりやどのようなサービスを利用し連携したのかなどわかりやすく具体的に講義していただき、パネリストの方々とディスカッション（それぞれの職種としての役割、多職種連携で気になること、担当者会議について）を行いました。

連携方法については、ラインの活用やまめに電話をするなどありましたが、普段から顔の見える関係作りが大切であること。特に看取りにおいては、最期の1～2週間をどの様に過ごすかという事を担当者会議などで皆と共有することが大切とお話いただきました。



★1月28日研修会を終えて（研集会参加者からのご意見など）

講師、パネリスト、座長の皆様には、お集まりいただきディスカッションをしていただきました。やはり顔を見ながらの話し合いの方が、話しやすいですね……。時間の都合上、質疑応答に時間が取れなかったのが残念で、参加者の方からも参加したかったとのご意見をいただきました。他にはZOOMという環境でも、充実した意見交換がありとても良かった。資料や話をされている方々の表情が会場よりはっきり見えて良かったなど、オンラインでも研修会は有意義であることを皆様から教えていただきました。

講師の村上先生、パネリストの皆様、研修会にご参加いただいた皆様、貴重なご意見をありがとうございました。



第2回東灘区在宅医療・介護連携推進協議会 報告

在宅医療・介護連携における課題抽出や対応策などを検討するため、2017年1月より、東灘区の医療・介護の23団体の代表者が集まり、年2～3回の会議を行っています。今回は、令和2年度第2回東灘区在宅医療・介護連携推進協議会（令和3年2月15日オンライン会議）のご報告をします。

事前に前回の推進協議会以降（7月9日）のコロナ感染症対策の変化、多職種連携や同職種（団体）連携の変化、医療崩壊を防ぐために病院と在宅で連携できることについてアンケートでご意見を集約し、話し合いました。

アンケートの結果、コロナ禍において、情報共有の必要性から、自団体や同職種間の連携の方が、他職種との連携より進んでいることが分かりました。コロナ感染対策においては、より一層の厳しいルールを策定している、「自施設内で感染者が発生した」想定で準備されているところもありました。

医療崩壊を防ぐためには、

- ①発熱者の受診のルール（必ず事前に病院に連絡を入れること、数日前からの詳しい病状、生活状況などの情報を伝えることなど）の徹底
- ②コロナ感染者、濃厚接触者が分かった時点で保健所と相談し関係者に連絡するのは当然であるが、本人・家族にも受診時などに事前に伝えるよう十分に指導することが必要
- ③面会制限があり退院支援が難しくなっているため、病院と在宅が電話やFAX、メール、オンラインなど様々な手段を使い、わかり合うまで情報共有し、スムーズな退院支援を行うことが必要と意見交換しました。

ホームページご案内



神戸市各区のサポートセンターの活動、研修会の案内や報告などをホームページで紹介しています。

ホームページアドレス <https://kobe-iks.net/>

東灘区医療介護サポートセンターより

サポートセンターでは、研修会や会議の開催、市民啓発開催などを行っております。今年度は、なかなか参集型の研修会を企画できませんでしたが、次年度はコロナ感染の状況に合わせて最善の方法で研修会などの企画を行っていきます。また、医療と介護の連携に関すること、どこに相談すればいいのか分からなくて困っていることなど気軽にサポートセンターまでご相談下さい。一緒に考えさせていただきます！

次回の東灘区サポセン通信は5月頃の発刊予定です。

TEL：822-0171 開所時間：月～金 9：00～17：00（土日祝休み）

